

提案されたアイデアの一部

①リニア駅周辺にあったらいいもの

リニア中央新幹線 飯田駅が自分が大人になったときに新しい長野県の玄関口となるので、こうなってほしいという希望を模型にしてみました。父に指導をしてもらいながら作成してみました。

将来、駅の周りにできる予定のもの（公表されている資料を参考にしました。）

①駅前広場	駅前広場には飯田らしくリンゴの木を植えると良いと思います。
②駐車場	タクシー・バス乗り場、高速観光バスの発着場、パークアンドライド方式※の駐車場、乗降のためのスペース ※パークアンドライドとは駅までは車で、駅からは鉄道やバスで移動する方法。
③動く歩道	JR飯田線の在来線の駅との連結させるための動く歩道
④高速との連結道路	座光寺パーキングエリアのスマートインターチェンジとつながる道路
⑤三遠南信道路との連結道路	三遠南信自動車道の喬木村方面とつながる道路
⑥国道のバイパスとの連結道路	国道153号線のバイパスとつながる道路

駅の周りにできてほしいもの

⑦元善光寺門前町	観光の発展のために元善光寺前に門前町ができると良いと思う。地域の特産品や食べ物のお店を売ってほしいです。
⑧大学・専門学校	地域の産業とかかわりのある大学などがあれば、地域に若い人が就職できる。少子高齢化を防ぐことができると思います。
⑨スポーツ施設	野球・サッカー・ラグビーなどの大勢で楽しめるスポーツの施設があるとよい。地域のクラブチームができるとうれしいです。
⑩第2県庁	長野市の県庁が遠いので、同じ役割を果たす2つ目の県庁が駅の近くにあると良いです。以前新聞記事でこの構想を読みました。

その他

- ・将来、人口が少なくなってしまうなか、駅を中心にいろいろな施設ができればそれを食い止めることができるのではないかと思います。
- ・大学・専門学校は航空産業の他にも、電子部品・建設・農業などの地域の産業と連携した学術機関が有ると良いと思います。学校ができることで、地元の学生の県外への流出を防ぐことができ、外部からの人口が増えたり、地域の企業に定着してくれることも多くなると思います。
- ・スポーツ施設やアリーナ級の施設が有れば地域の活気が保て、スポーツや文化のレベルが向上すると思います。

以上です。

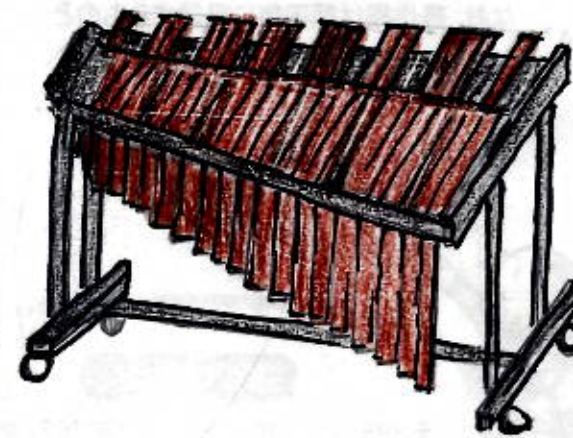
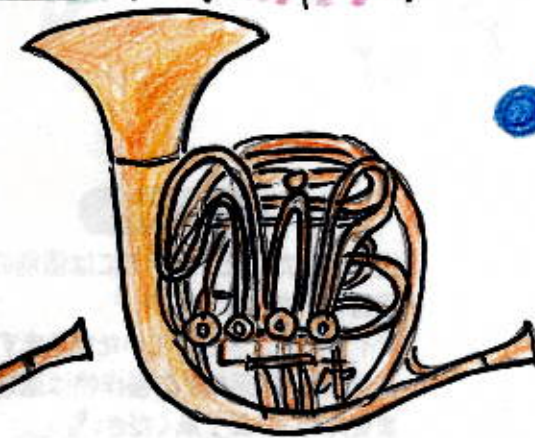
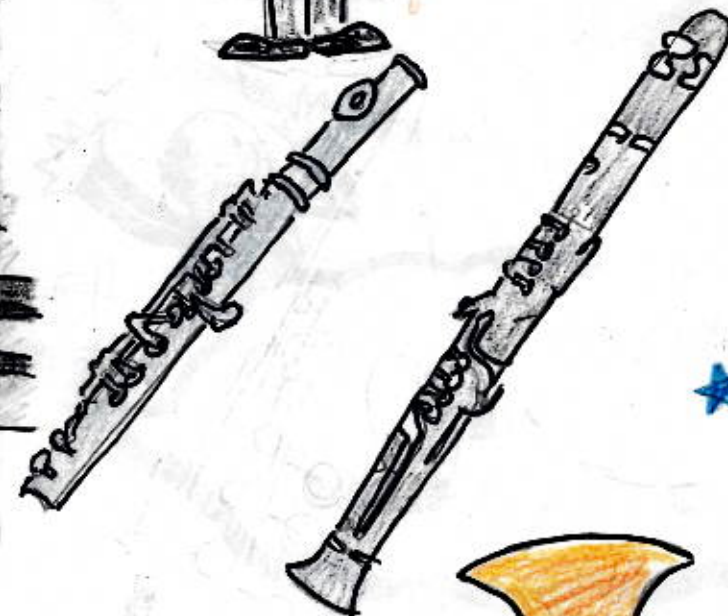
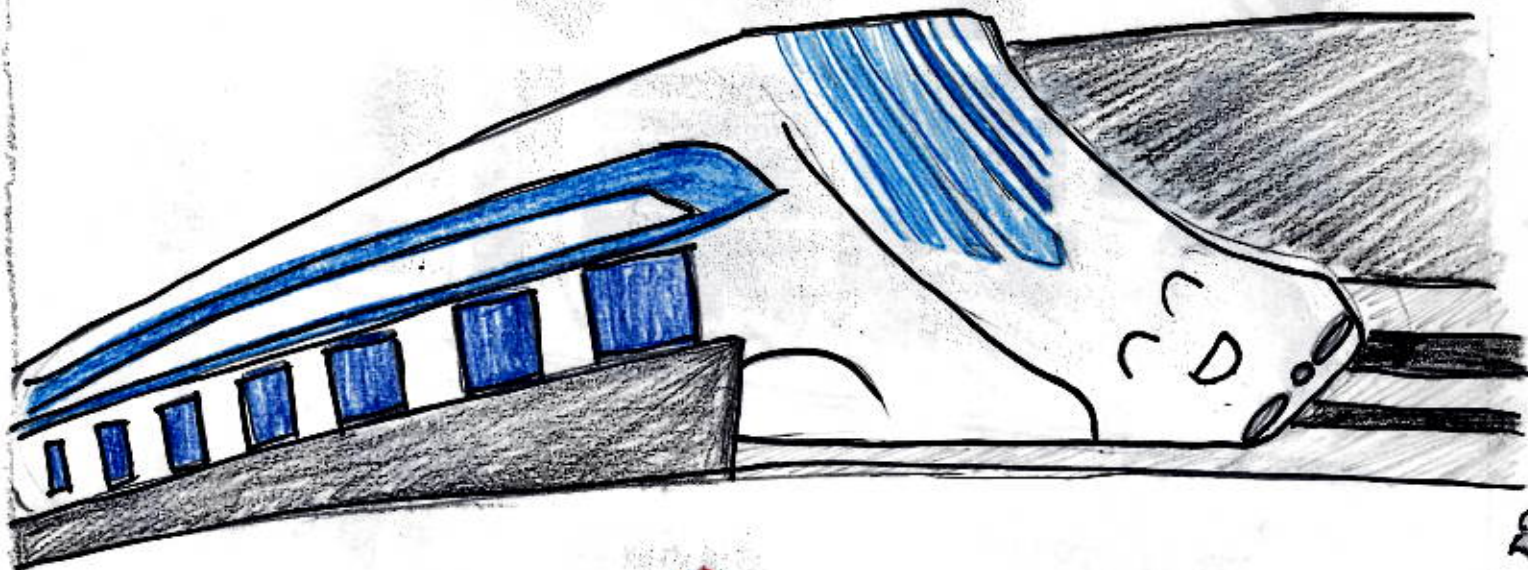
①リニア駅周辺にあったらいいもの



①リニア駅周辺にあったらいいもの

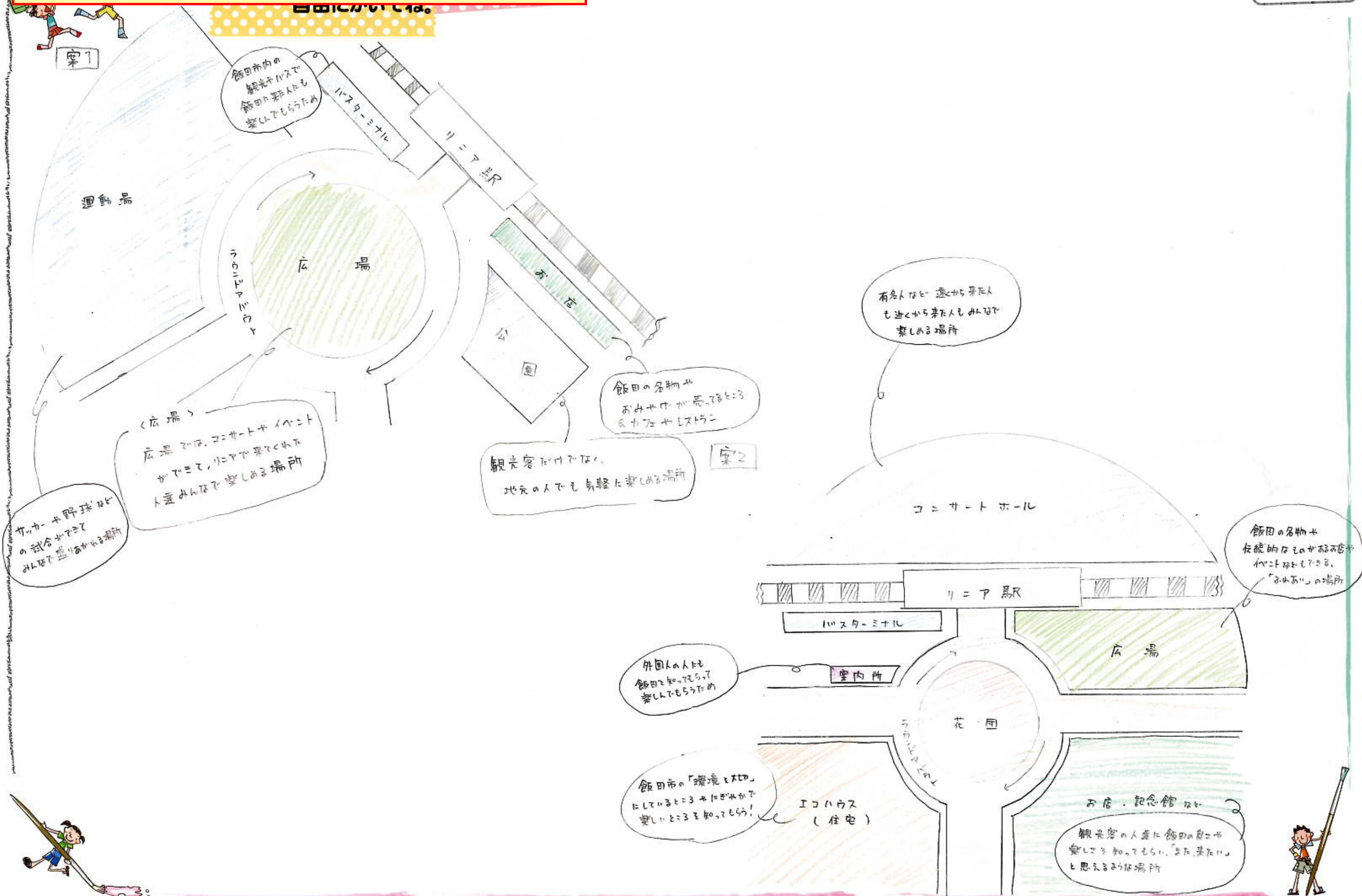
音楽を聴いて、歌って、奏でて…

飯田市へ **おいなんよ**♪



リニア駅前に **コンサート** ホールを作ろう!

②使いやすい駅にするための施設・機能



リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書**○情報を発信する****1. SNS を利用した情報発信**

SNS は世界中で人々の交流のツールとして利用されている。今回はその中の SNS からハッシュタグというシステムを利用し、SNS を使った新たな情報発信の仕方を提案する。

① SNS からパンフレットへ

SNS で #飯田、#飯田観光などと投稿された幾つかの投稿からパンフレットを作成する。飯田市内外の人々の生の声を聞くことで、より飯田市の良いところがわかる。また写真も利用して飯田市のいろいろな楽しみ方を発信する。

② SNS から駅内のディスプレイへ

駅構内にディスプレイを設置し、SNS で #飯田、#飯田観光などと投稿された幾つかの投稿をディスプレイに映す。位置情報を利用して飯田市の地図と連動させ、写真や動画による観光情報マップとして飯田市を発信する。



図 1. SNS のイメージ画像

②使いやすい駅にするための施設・機能

2. 新しいりんご並木による情報発信

飯田市には人々の交流の中心の場となっているりんご並木が存在する。駅構内へも情報の交流場所として新たなりんご並木を作することを提案する。

駅構内の一部の廊下にりんご並木を描き、りんごの実の場所にスペースを設ける。そのスペースに地域の方や観光に来てもらった方に飯田市の楽しい場所や行って欲しい場所をPRしてもらおう。何色かの用紙を配布し、カテゴリーごとに色を使い分ける。そして写真や文章を用い、飯田市の観光情報を記入した用紙をりんごの実の場所に展示し、情報の交流の場としてのりんご並木を完成させる。地域の子どもから大人まで幅広い年代から情報を提供してもらい地域一体となって情報を発信する。

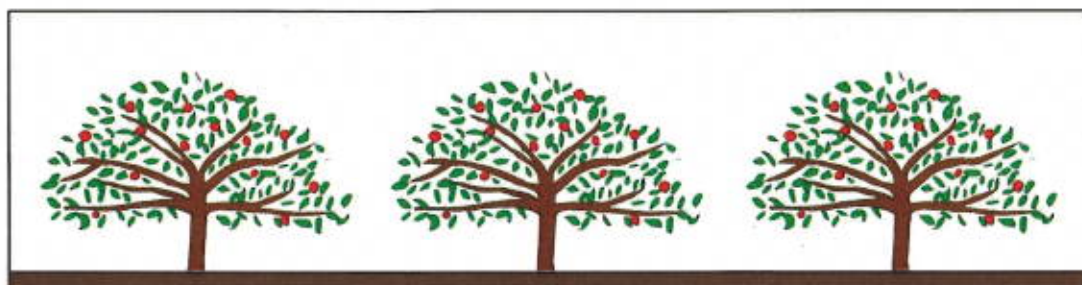


図 2. りんご並木イメージ

○グローバルを惹きつける

1. 木造駅舎の建設

飯田市周辺は多くを森林で囲まれており、ヒノキ、アカマツ、カラマツなど多数の木が豊富に存在している。日本では、古くから木造の建物が多く建てられてきた。この案では、日本らしさと飯田市らしさを併せ持った木造駅舎を建設し、グローバルな観光客を呼び込む案として木造駅舎を提案する。

現在、幾つか木造駅舎が建てられており、その一つに掛川駅がある。掛川駅は、新幹線が停まる駅で唯一の木造駅舎である。掛川市に観光に来た人は、駅の写真を撮っていき、木造駅舎が一つの観光資源として成り立っている。飯田市のリニア中央新幹線の駅舎も木造にすることによって、「リニア中央新幹線で唯一の木造駅舎」として観光資源になることを期待する。

②使いやすい駅にするための施設・機能



図 3. 掛川駅舎



図 4. アカマツ

2. りんご狩り

飯田市は市の木をりんごとし、全国でも有数のりんごの産地である。これを生かし、リニア駅周辺でりんご狩りが出来る場所を設け、観光客を呼び込む。さらに、自分で収穫したばかりのりんごをジャムやパイに調理できる施設も併設する。このような非日常を味わう「体験型」の施設を設けることで、駅の利用率の増加をはかる。

3. 天体観測所と周辺整備

飯田市周辺の日本アルプスに囲まれた利点を生かして天体観測所の施設を整備する。また駅前のバスターミナルやロータリーを整備し、観測所までのバスなどをリニアにあわせたものに変えることで、観光客の誘致につなげる。天体観測所への観光客を増加させるために、天体観測所へ宿泊施設を併設させることで観光の拠点にする。宿泊できることで日の出や夜空をより堪能できると考える。

4. 香りによるまちづくり

駅を出たときに飯田市に来たと訴える要素として香りを提案する。駅構内へりんごや桜の香りがするアロマを設置し、改札をでた時にりんごや桜の香りを感じさせ、飯田市の印象を与える。

③「伊那谷らしさ」の演出

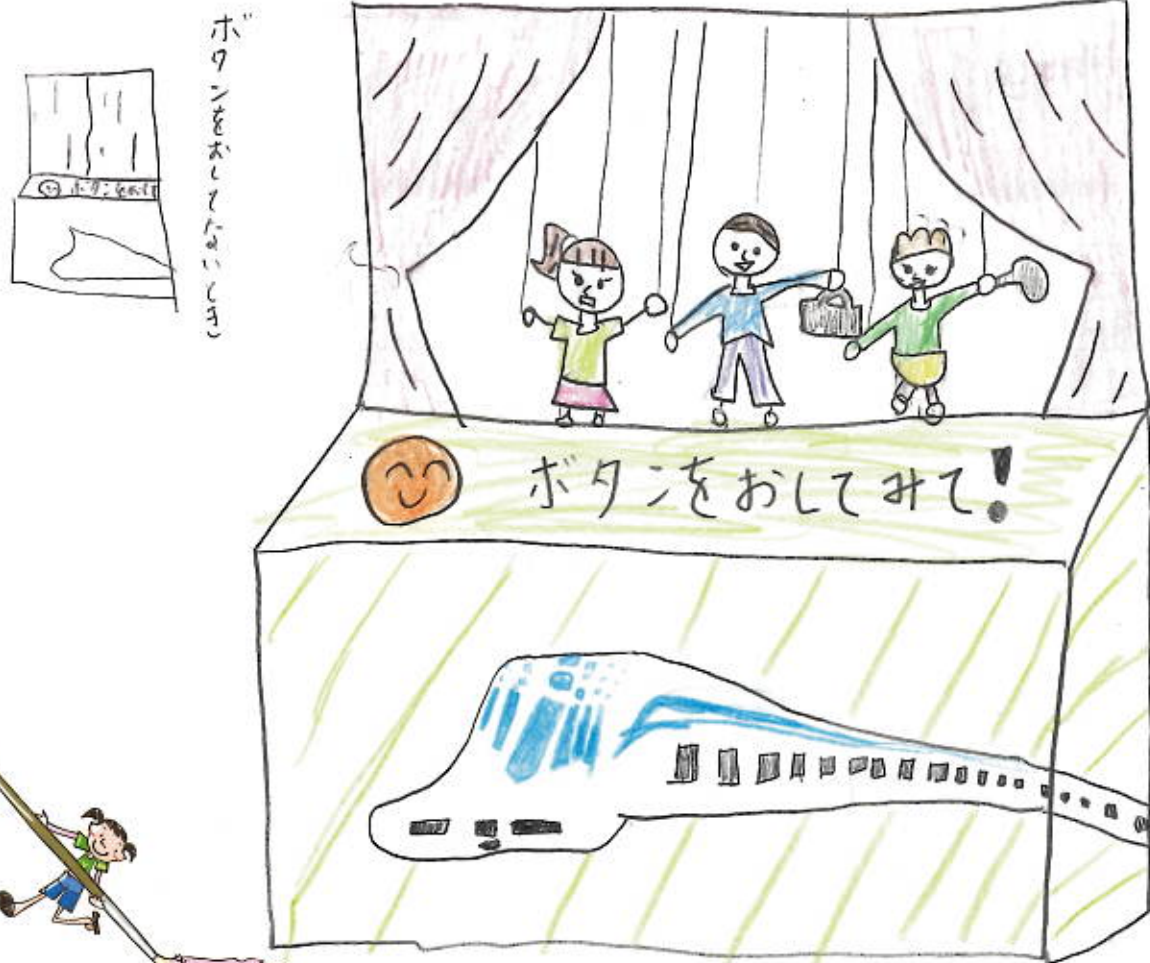
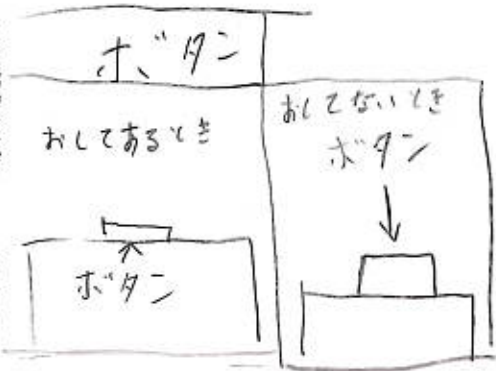
目田にかいてね。

いい田は、人形がきとししまいの、田丁なのでフェスタがやらないときでも、そのよさを知らせてもらいたい。
リニア馬尺の中に人形がきとししまいのプレイボックスを作、て、いい田にきた人に楽しんでもらいたい。

①(ボタン)をおすと、カーテンがひらいて、かわいい人形が重力きたします。

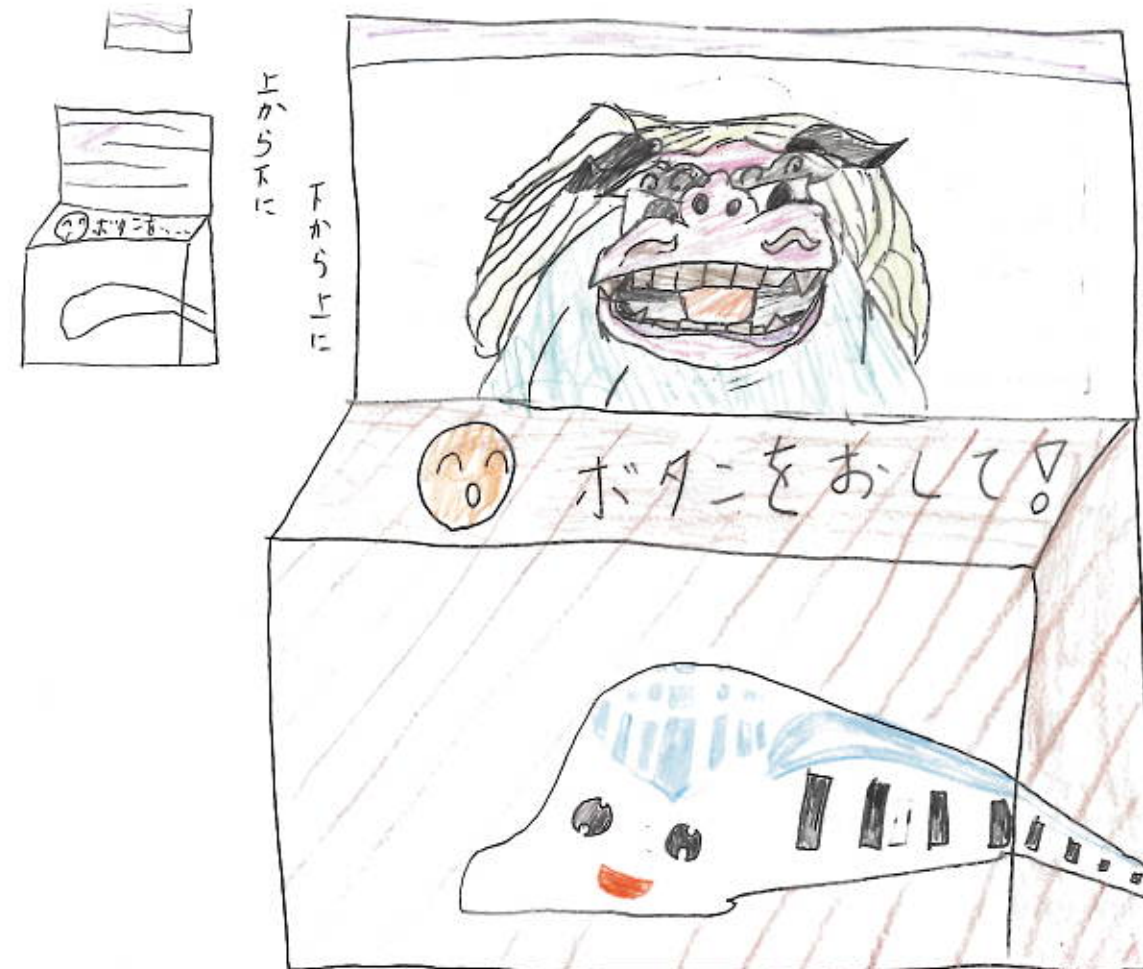
②をおしてないときは、カーテンがしめてあって、ボタンがふくらんでいます。

くうくは、左下の田



③をおすと、シャッターがひらいて、かわいいししが、うごきだします。

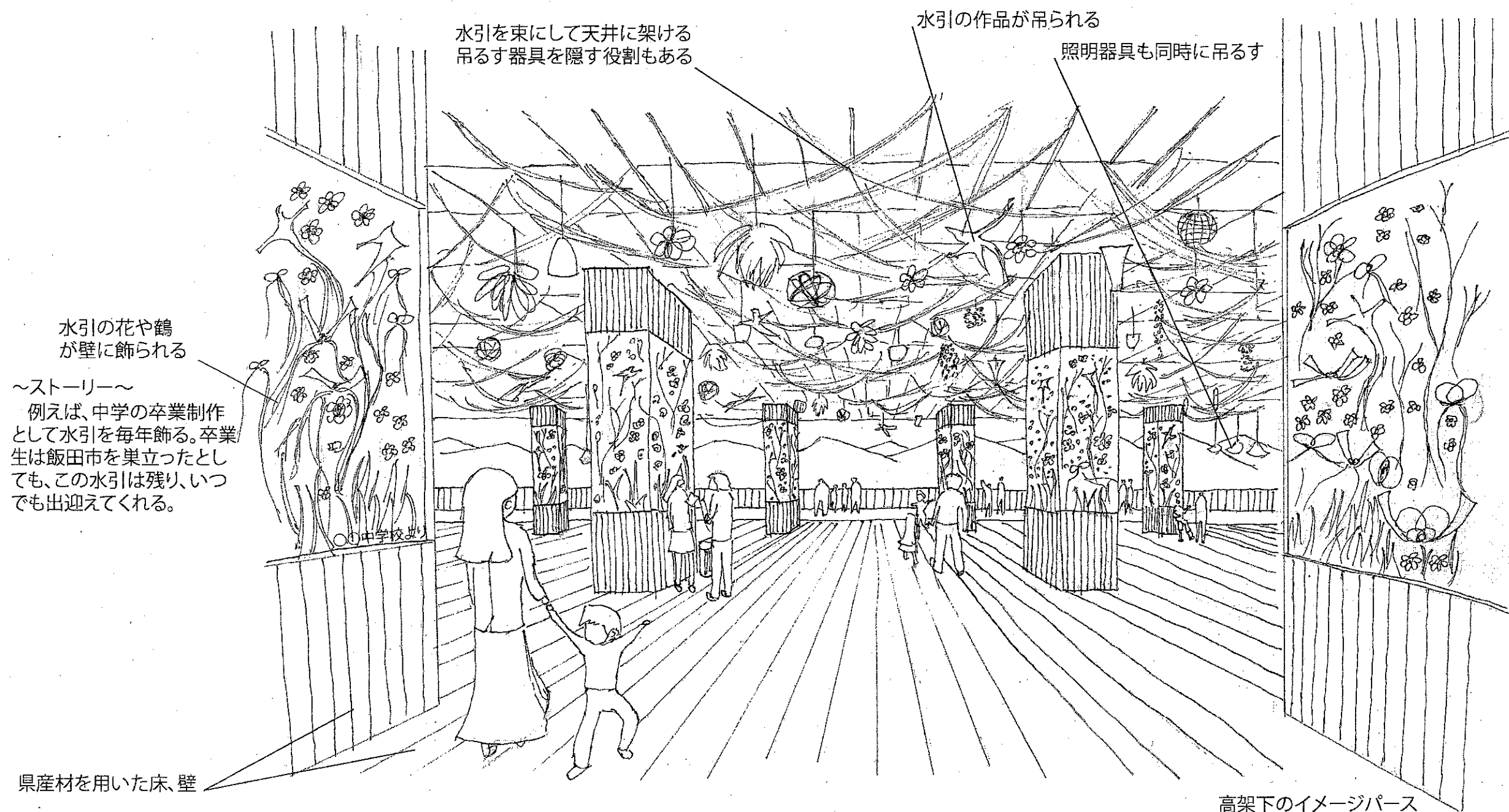
④をおしてないときは、シャッターがしめてあります。



みんなでつくる水引のおもてなし空間

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書

A0015



④ コンセプト

私たちはリニア駅ができることを記念して、飯田市の伝統的な工芸品である水引を用いた駅舎空間のデザインを提案します。

この提案の一番のポイントは市民に参加してもらうことです。市民の方々に簡単な水引の工芸品を作ってもらい、駅構内の展示空間としてデザインします。

④ 市民でつくる水引プロジェクトの手順

1. 水引作品を作ってもら

小学校や中学校、商店街の方々を中心に簡単な水引作品をつくってもらいます。具体的には、花柄やまりのようなものです。

2. 水引作品を集めて展示する。

作って頂いた水引の作品を集めて、展示空間をつくる。駅舎内の通路に細い糸で吊るすようなイメージです。又、太く束にした水引を架けて、設備を見えにくくします。

3. 水引作品は更新される

展示された水引作品は毎年度更新され、自分の作品が駅に飾られる喜びがあります。特に中学生たちの想像力の向上と発信の場としても機能します。

市民がつくることで新たにできるリニアに対して愛着をもってもら

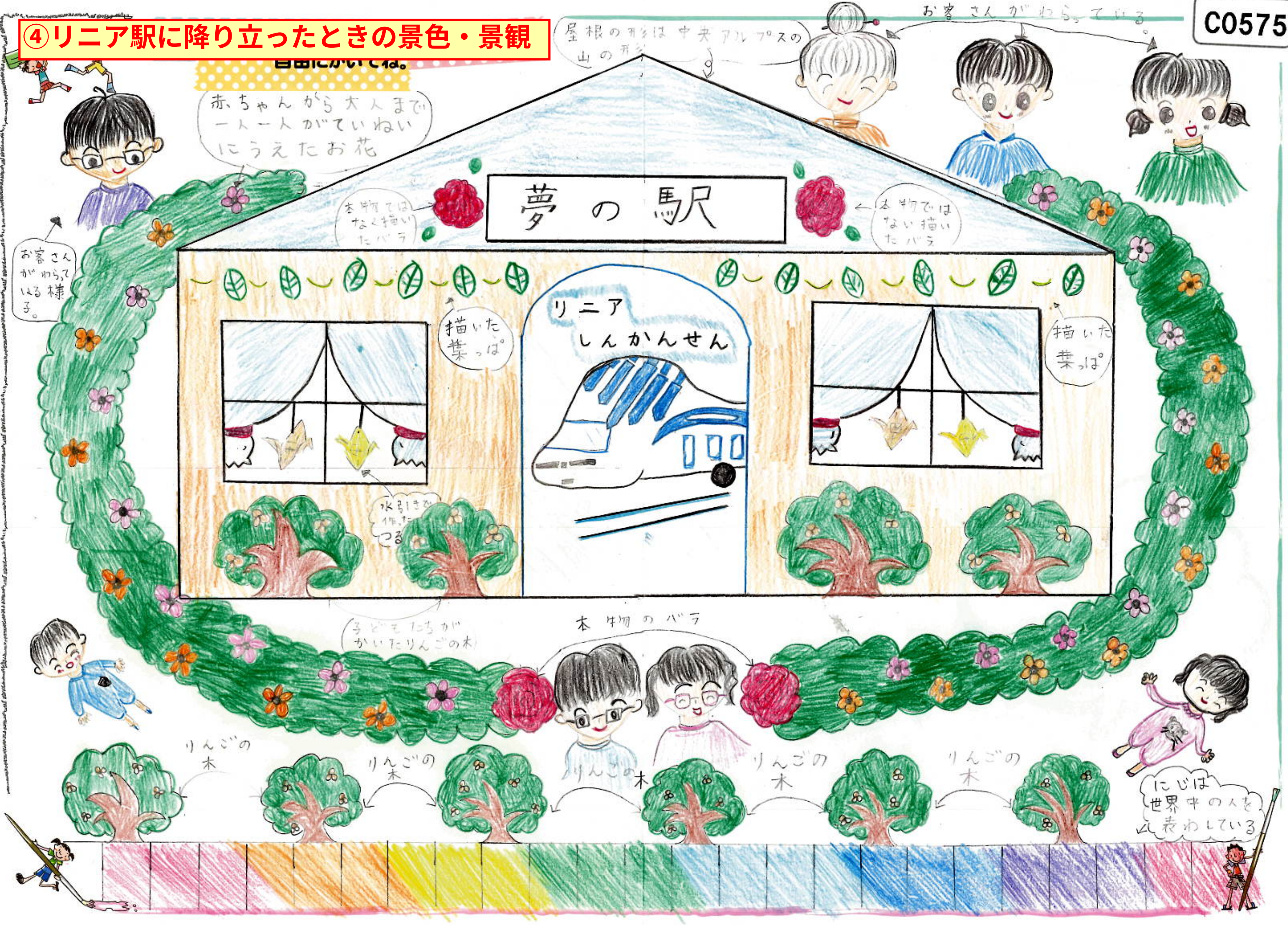
④ 人と人を結ぶ水引空間

私が水引をモチーフにしたデザインを用ようと考えたのは、地域の伝統的な工芸品であるとともに、人と人をつなぐ「縁」の象徴だったからです。

リニアが開通することで、たくさんの国の方々が訪れるでしょう。来訪者を迎えるリニア駅高架下空間として市民一人ひとりが参加できる仕組みを取り入れ、みんなの作品でおもてなし空間をつくりたいと考えました。

そして、水引の技術を次世代につなぐ試みでもあり、何より市民の皆様の飯田に対する愛を再確認できるプロジェクトであると思います。

④リニア駅に降り立ったときの景色・景観



④リニア駅に降り立ったときの景色・景観



これは、飯田馬尺の近くに、
大きなりんごの木など大きなスベリタイ
をイメージしました。
これは外国語のパフレットです。

C0429

④リニア駅に降り立ったときの景色・景観

A0046

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイディア

<守るべき伊那谷らしさ>
時代が変わっても、変わらず広がる
ローカルな伊那谷（竜西地域）の「風土」。
里山、風越山、中央アルプス、食、伝統芸能、人、..

ようこそ伊那谷へ！
玄関口・交流点のシンボルとして
360°パノラマ展望台を整備する。

<広域交通拠点>
「ローカルとグローバル」の玄関口
「ラビッドとスロー」の交流点

<守るべき町らしさ>

飯田 美しき町
山近く水にのぞみ
空あかるく
風にほやかなる町

飯田 静かなる町
人みな言葉やわらかに
物音ちまたにたえず
轟然として
古城の如く 丘に立つ町

飯田 ゆたかなる町
財に貧富あれども
身に貴賤ありとおぼえず
一什一器かりそめになく
老若男女みなそれぞれの
詩と哲学をもつ町

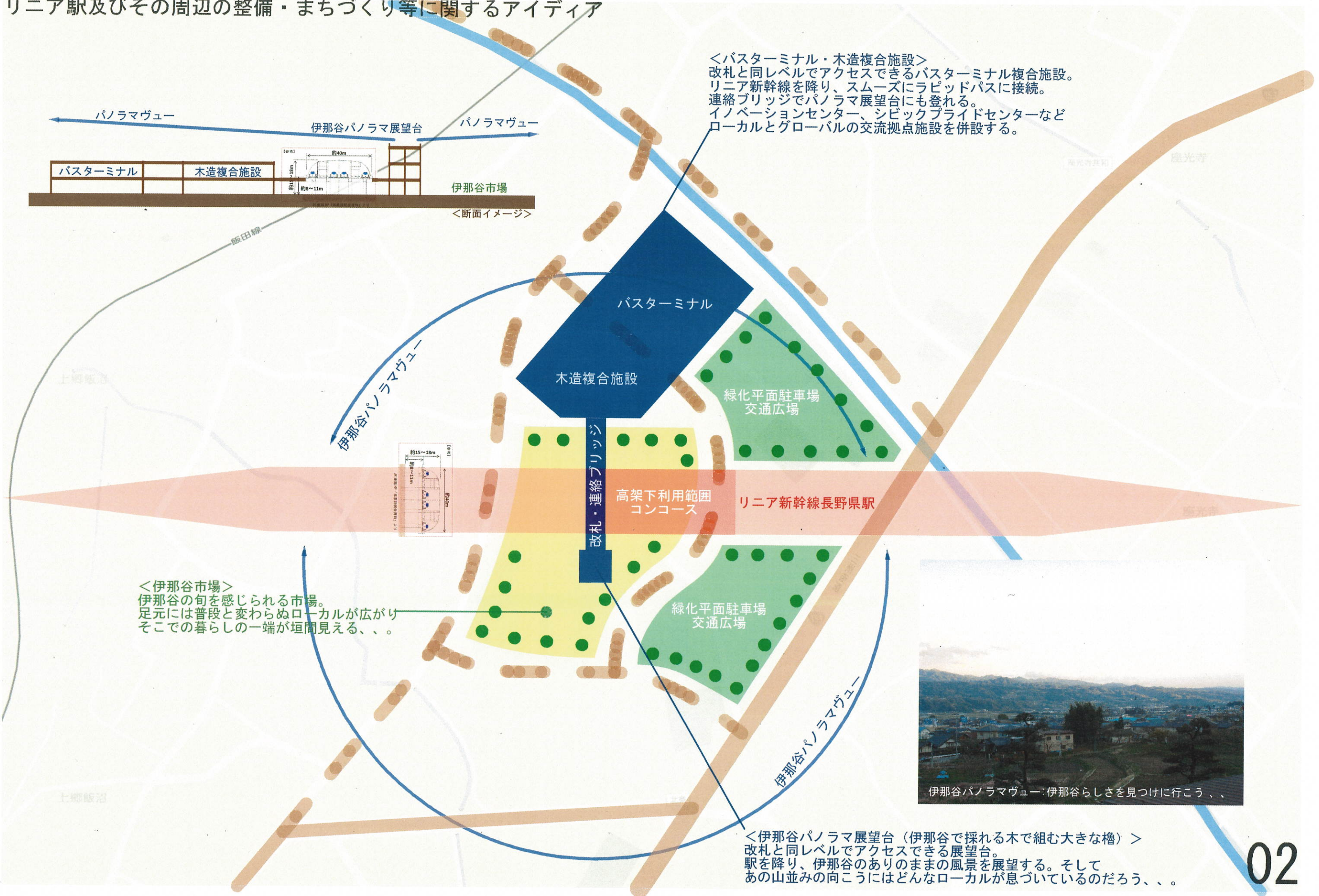
<中心拠点>
(中心市街地)

全国どこにでもあるロードサイドの街づくり
や資本投下の手法は変わらない！そこにルールを設ける。
建築物の色や高さの制限、沿道の積極的な緑化など。

<守るべき伊那谷らしさ>
時代が変わっても、変わらず広がる
ローカルな伊那谷（竜東地域）の「風土」。
里山、南アルプス、食、伝統芸能、人、..

④リニア駅に降り立ったときの景色・景観

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア



⑤ 来訪者へのおもてなし

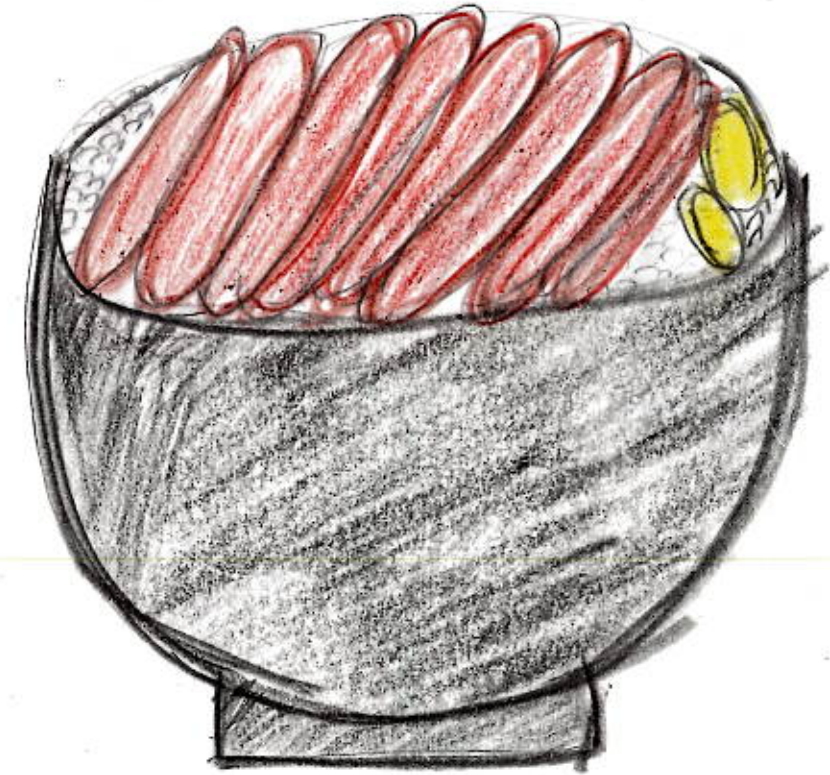
その土地によって、名産物や、特産品があるレストランや、店がある
 しいいと思う。

ゴブイモチ



カツソース

ソースカツどん



「文化の拠点」プロジェクト——「山都」復活に向けて——

ハード
新しいまちは
デザインコンペで
伊那谷らしさを

ハード
・開発企業との連携
・交通手段
殿堂の拠点と集落を結
ぶ手段は、ロボットタ
クシー(未来)

1 プロジェクト事業
豊かな自然を発信
雇用を産む・新産業を産む
写真家 文筆家
デザイナー
IT関連
アーティスト

2 プロジェクト事業
豊かな植生・作物・果物
雇用を産む・新産業を産む
アーティスト
農工業

3 プロジェクト事業
ゆとりある時間
雇用を産む・新産業を産む
各種体験企画業

●目的●
『次世代を担う産業を育て
雇用の拡大と人口流出に歯止めを』

●目標●
伊那谷の魅力をフル活用した地産地消型の企画力で
金と雇用を産む新しいまちづくり

●手段●
伊那谷の魅力を最大限に生かす演出(デザイン・物語)
+発信力(IT・映像)
+営業力(差別化と国際化)

文化の拠点の殿堂づくり リニアの駅周辺に新しいまちをつくる

伊那谷の文化を一級品として **発信する場**
国内外の文化の **交流と融合の場**
新しい文化を創出し **未来を紡ぐ場**
日本の原風景ともいえる伊那谷を **磨く場**

6 プロジェクト事業
おもてなしの心
雇用を産む・新産業を産む
国際化に向け通訳
コーディネーター

5 プロジェクト事業
伝統産業・食産業
雇用を産む・新産業を産む
職人
販売員
飲食業

4 プロジェクト事業
生活に根差した伝統文化
雇用を産む・新産業を産む
エンターテインメント(プロ集団)
観光業

飛び出そう！
本物体験へ

日本の原風景が残る村部の集落 (景観・歴史・営み)

裏面 資料A・B
A：365×未来年
B：リニア時代を見据えた
「文化の拠点」構想について

文化の拠点プロジェクト
365日×未来年
毎日欠かさず365日営業
365種の企画イベント
×企画刷新
＝毎日ワクワクの飯田のまちへ行こう！

国際都市＝世界の窓口

全国との差別化——他のまちにはないオリジナル文化を創る

⑥リニア駅周辺でのイベント開催

資料B

リニア時代を見据えた「文化の拠点」構想について

「文化の拠点」は、リニア駅近くの用地を活用し、伝統芸能並びに芸能全般・観光資源・物産が集積、発信される拠点づくりを目指すもの。「文化の拠点」をステップとし、そこでの感動体験が、周辺村々へとジャンプし、地元との交流につながる。

「文化の拠点」は、知識・経験・情報・創造が集積、発信される人的ネットワークの拠点づくりを目指すもの。人的ネットワークとは「知識・アイデア・企画力・行動力」をいう。単なるインフォメーション施設ではなく、芸能鑑賞・娯楽施設・食事処・特産市場・おもてなし案内所など文化経済振興に寄与するものである。

理念

- ①文化振興の「文化の拠点」——南信州の伝統芸能を核として文化の進化をめざす（保存会・学芸員との連携）
- ②地域振興の「文化の拠点」——南信州の自然・文化（祭り・食）・風土（生活・秘境）・歴史・産業を探索・発信し、文化の深化をめざす（大学との連携）
- ③国際都市としての「文化の拠点」——南信州のすべての価値を発信し、全国ならびに世界との文化交流をめざす
- ④新たな知とアイディアを呼び込む「文化の拠点」——文化は進化しつづけるものであり、CG・音楽・色など新しい時代感覚と伝統芸能のコラボなど、未来の文化を創り続けることをめざす（創作活動家との連携）

具体的には、インターナショナルとしての語学教室、芸能育成講座と実践、食の開発、特産の開発、など、可能性への挑戦を怠らない。文化は新しい時代を創るものであり、新しい産業形成につながる。

「知の拠点」と「文化の拠点」の両輪をもって、リニア時代を見据えた文化経済産業振興を図る

文化経済振興に寄与する「文化の拠点」



ジャンプ！

飛び出そう！本物体験へ！町へ村へ山へ川へ！

飯田といえば祭り文化

(南信州)

飯田のバックボーンとする。

(南信州)

伝統芸能

リニア駅エントランス
駅の近くに集客型ホール

創作ダンス

ストリートパフォーマンス

太鼓

企画イベント

コンサート

通過点にさせない！
必ずお客様を降ろす！

リニア飯田駅

降りたお客様に必ず
立ち寄ってもらう
集客型ホール

住民の憩いの場

住んでる人も文化を知る

伝統芸能
歌舞伎
人形劇
人形浄瑠璃
獅子舞

+

食

土産

体験

飯田感動入門

1人のお客も逃さない
1人でも感動を

- ①ショーとして
飯田の文化を 楽しみ
飯田の食べ物を 楽しみ
飯田の特産を買う 楽しみ

総合会社

企画・運営
レストラン・食堂
土産店など各店舗

- ②楽しんでいただ
いたお客様には本物の
感動を味わっていただ
く。

地域のプロたち
地域住民

飛び出そう！本物体験へ
町へ村へ山へ川へ！

①→②→①→②→①→② の繰り返いで
飯田を知る、住みたくなる



飯田らしさ

飯田は四方を山に囲まれた、長い歴史と伝統を持つ街である。古くから信州における上方文化の玄関口として栄え、現在でも美しい自然と伝統文化が残る飯田は、「信州の小京都」とも呼ばれている。

近年では2013年に内閣府から「環境モデル都市」に選定されるなど環境問題への取り組みが盛んになっており、環境都市として自然環境にやさしいまちづくりが進められている。

そうしたなか、飯田市の交通機能を自転車とすることを提案する。

飯田の魅力である豊かな自然や昔ながらの街並みを全身で感じながら環境に負荷をかけることなく移動できる自転車はまさに飯田らしい交通手段といえる。



▲山に囲まれた飯田市街では街中の様々な場所で南アルプスの雄大な自然が楽しめる。

▲飯田は人形浄瑠璃や獅子舞など伝統芸能が数多く残る。また、水引などの伝統工芸も盛んである。

飯田市は焼肉の人口一人当たりの焼肉店の数が1位のまちとして知られている。飯田市に来たら焼肉を食べようというほど市民の間で焼肉の文化が浸透している。その焼肉愛は外食のみならず一般家庭にも根付いており、ほとんど一家に一台のコンロと鉄板を備えているという説もある。まちには観光客も気軽に入れるような焼肉店も多く、様々な焼肉店で食べ歩くことも飯田を観光する上での楽しみの一つである。

しかしながら、飯田に来て焼肉を食べて太って帰ったのでは必ずしもいい旅の思い出にはなるとは限らない。では、どうすれば太らずに飯田の町を観光できるだろうか。そこで、我々は飯田の観光における移動手段として自転車を提案する。様々な観光施設に立ち寄りながら、飯田の丘を時に登り、時に下り、カロリーを消費することで食べた分のカロリーを取り戻す。そしてまた、次の焼肉店へ・・・

▶時計にはカロリー表示機能が搭載されており、自転車に乗りながら消費カロリーを知ることができる。



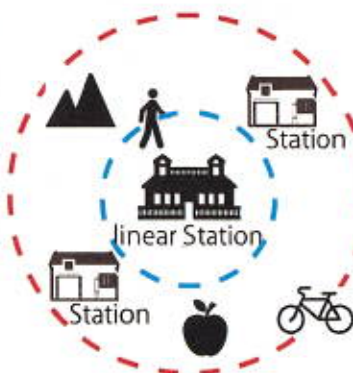
飯田市の利便性

飯田市は、東京と名古屋の間に位置しているため、観光客が訪れやすい。また都会に住む人々にとって、飯田の魅力的な自然をリニアが開通することによってより手近に感じることができる。



自転車導入の意義

リニア駅から飯田市の観光地や最寄りの駅には徒歩での移動は困難である。自転車を導入することで飯田市の魅力により多く触れることができる。

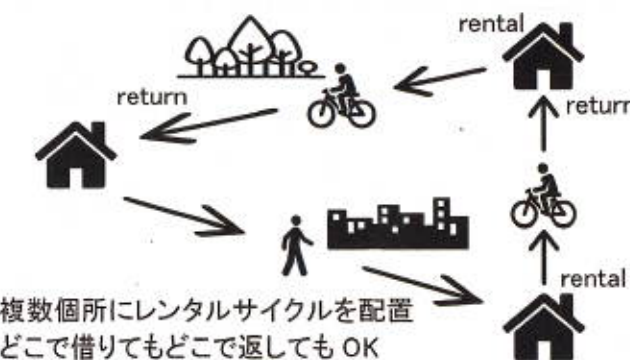


環境に配慮した交通手段 A0020

交通手段としてバスやタクシーの利用も考えられるが、自転車を利用することで観光に優しい町づくりをすることができる。また、自然を肌で感じることができるのも自転車のメリットである。



自転車観光の機能



- ・複数個所にレンタルサイクルを配置
- ・どこで借りてもどこで返してもOK
- ・自転車で飯田の自然を感じたり、街歩きすることも可能
- ・Mapを用いて自分だけのオリジナルのルートを作れる！

自転車マップ全体図 (例)





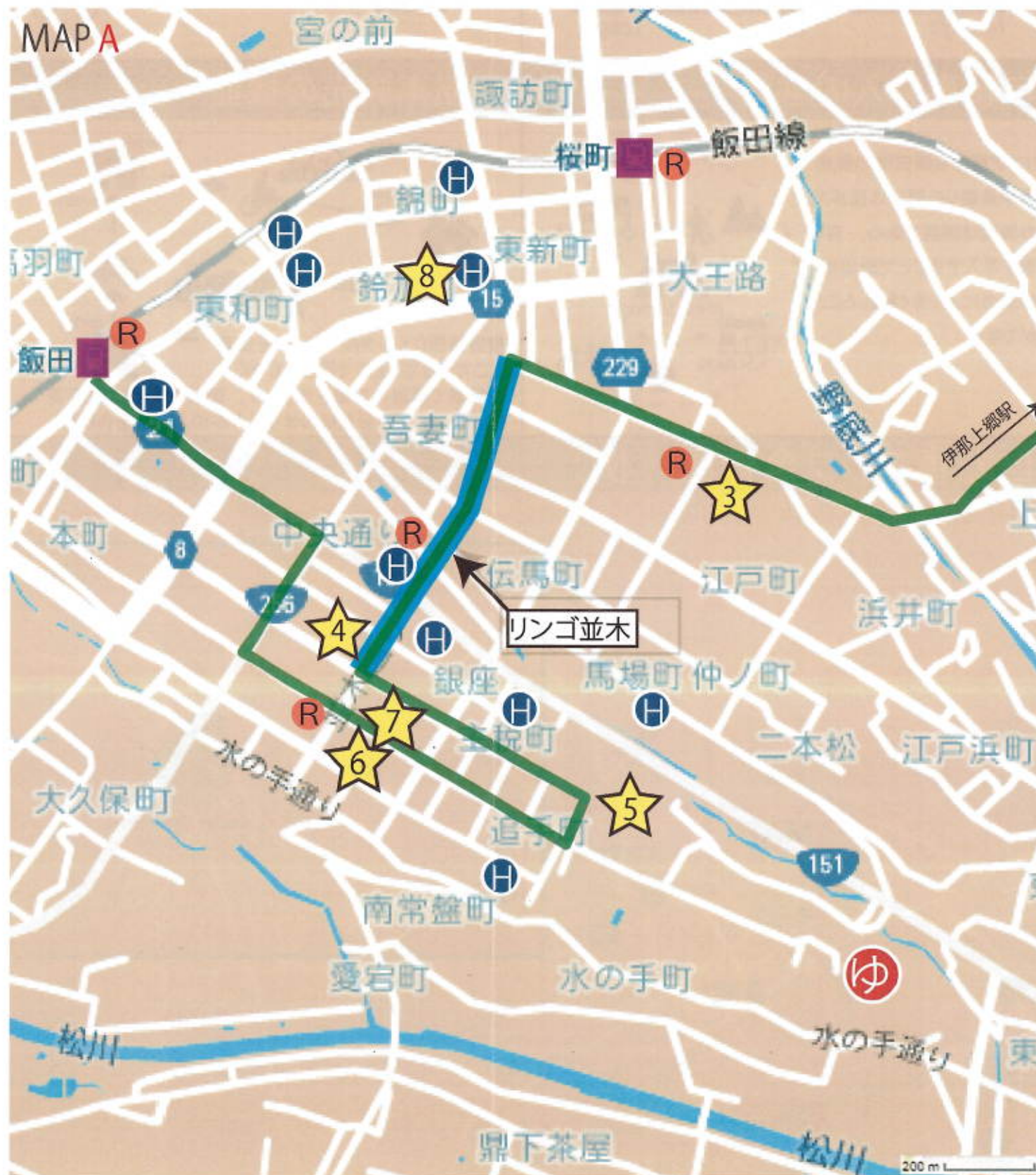
本提案で作成したルートは、

- ・リニア飯田駅～元善光寺駅方面のルート
- ・リニア飯田駅～伊那上郷駅方面のルート
- ・伊那上郷駅～飯田駅方面のルート

の3つである。

このルートを通ると、目的地に向かいなが

ら自然に飯田の観光地を回ることができる。ただ、このルートはほんの一例にすぎず、飯田を訪れた人達には、それぞれの感性でオリジナルのルートを通り、その時々飯田の表情を体感してほしい。サイクリングをしながら、さらなる飯田の魅力を発見し、飯田をより身近に感じてもらうことがこの提案の目的である。



①元善光寺



②旧座光寺・麻績学校校舎



③正永寺



④旧飯田城桜丸後門赤門



⑤三連蔵



⑥裏界線



⑦本喜八郎人形美術館



⑧つけもの蔵

凡例

- ビューポイント
- 鉄道駅
- 観光スポット
- 温泉
- 宿泊施設
- レンタサイクル



ビューポイント



りんご並木

写真：飯田市 HP より引用

⑧まちづくり

A0039

緑化された駐車場

- 緑に覆われた屋外駐車場
- 透水舗装等による
クール・アイランド空間の創出

広葉樹・多層林による ポケットパーク

- 木陰、木製ベンチ、バーゴラによる、
休憩・遊歩道空間
- クールアイランド空間の創出
- 広葉樹・多層林の野鳥、昆虫の生息空間

集落の再現による 交流・体験・イベント広場

- イベント広場を介した来訪者との交流空間
- 移築「本棟造」3棟位を核とした建築群。
民家に時代性を加味した各交流・休憩施設のイメージ
- 路地と広場の連鎖による集落の再現

- A 緑化された駐車場
- B 多孔質護岸・水生動・植物の生息地
- C 段差を利用した人口滝
- D コンコース部・展望デッキ
- E ペディストリアン・デッキ（空中遊歩道）
- F 交流・体験・イベントの広場
- G 市場・桜町線への接続遊歩道
- H 段丘下段・駐車場
- I ホーム階へのエスカレーター
- J 軒先空間・プロムナード
- K 駐車場（バス・二次交通用）
- L 駐車場（自家用・レンタカー用）

【南口：南面からのアクセスを受容
ロータリーを1基計画
交流・体験・イベント広場が主体】

敷地内での車の循環

連絡道路

【北口：座光寺スマートIC・フルーツラインからの
アクセスを受容、ロータリーを2基計画
①バス、二次交通用②自家用・レンタカーに区分】

ホーム階からの遊歩道

- ホーム階と市場町線を繋ぐ遊歩道
- 元善光寺・麻績の館、新駅への
スムーズなアクセス
- 展望デッキからの眺望

ビオトープ空間の再生、小水力発電の活用

- 豊かな水量の現況水路を活用、人工滝の設置
- 小水力発電の活用
- 自然石による多孔質護岸
- 水生動・植物の生息空間（ドジョウ・メダカ・カマメ・水草 etc）

野草の段丘、展望の丘

- 駐車场上段の展望広場
- 天竜河岸、南アルプスへの展望
- 野草の採取（ふきのとう、わらび
タラの芽、コシアブラ etc）
- 木陰空間、休憩ベンチ、東屋
- 野鳥、昆虫の生態空間

元善光寺、麻績の館、
新駅へのアクセス道

地域の方々によるイベント広場

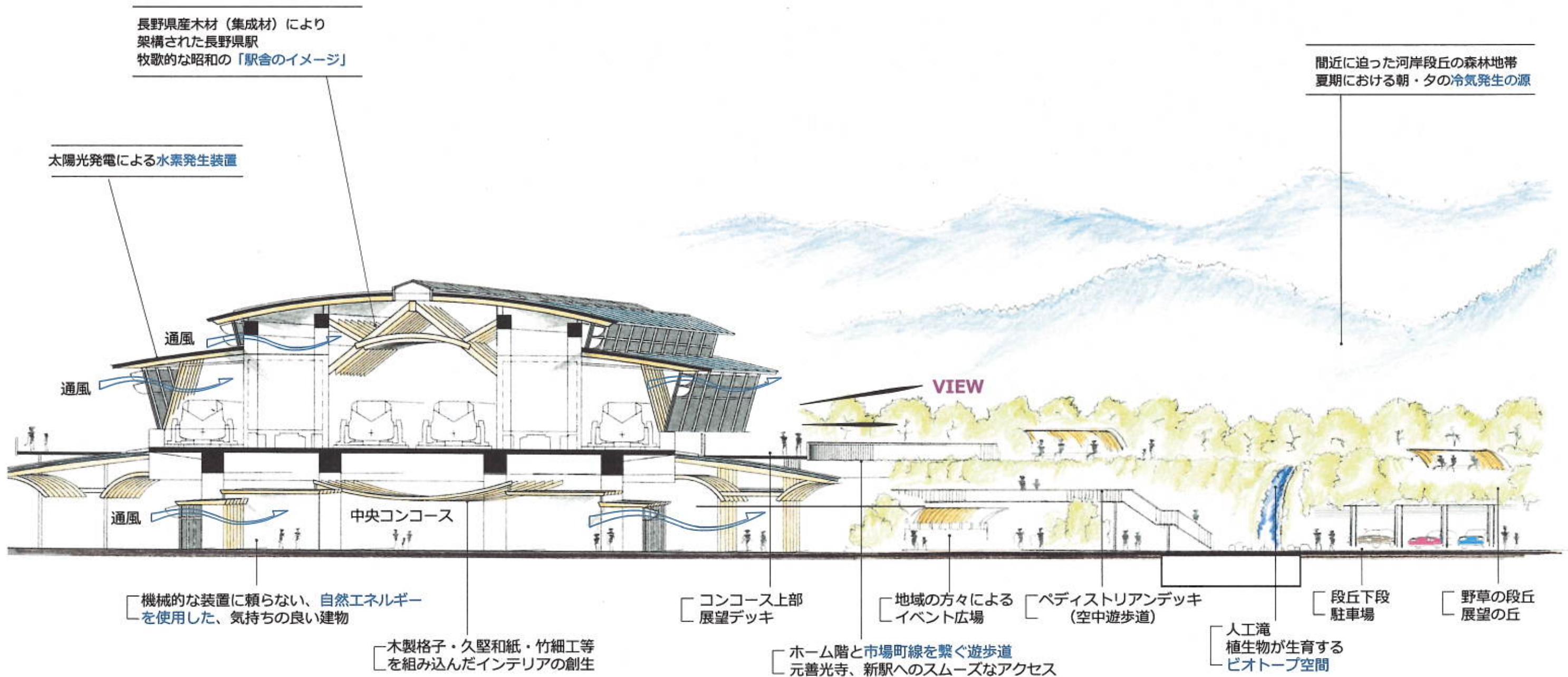
- 北口正面の交流イベント広場
- 産直品の直売所、軽トラ市 etc
- 地域伝統芸能・祭事の開催

リバーサイドパーク

- 河川沿いの親水公園
- 多孔質護岸による親水路
- 水生動物、植物の生息空間
（ドジョウ・メダカ・カマメ・水草 etc）
- 木陰、休憩ベンチ、バーゴラによる休憩

S=1:1,500

⑧ まちづくり



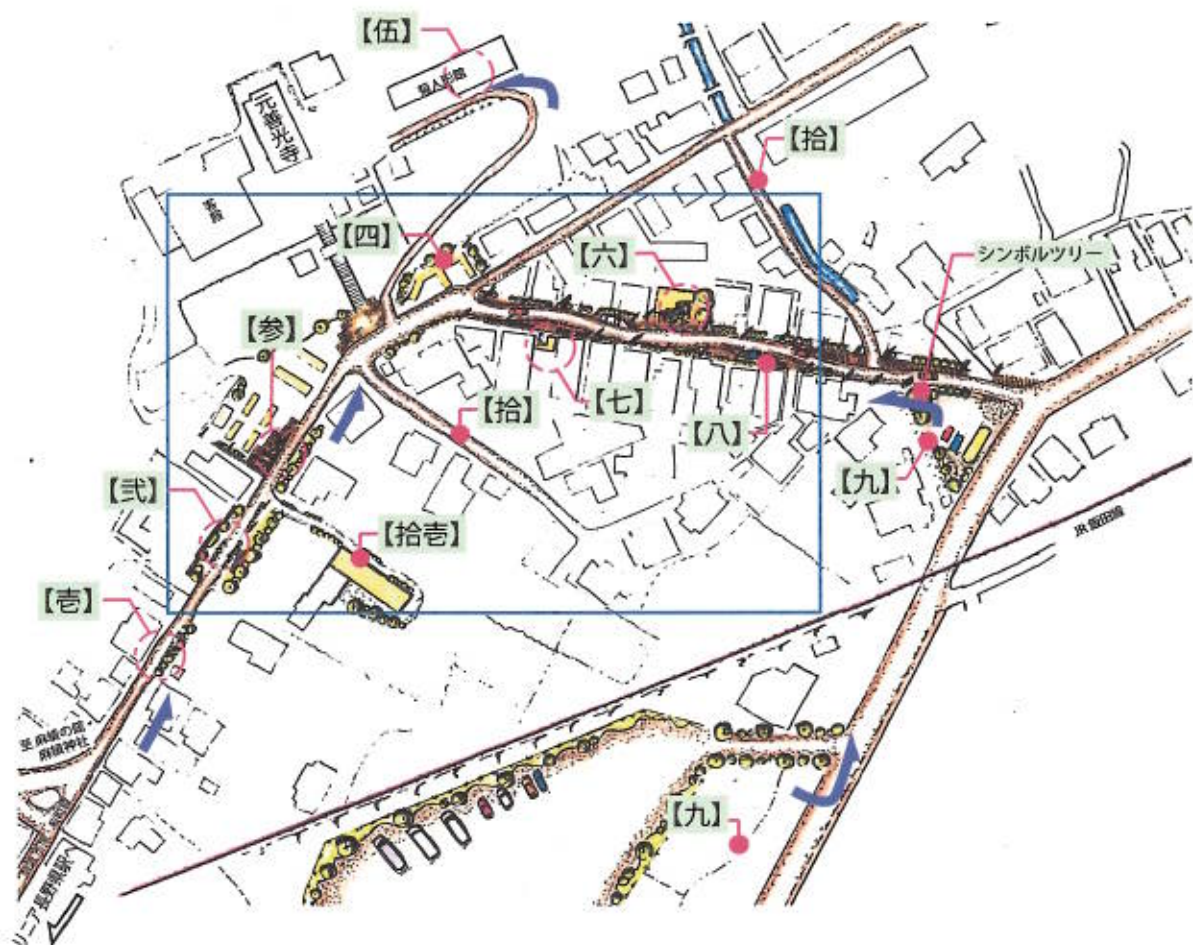
S=1:300

⑧ まちづくり



まちづくりの中の「みち」の役割

- ・道路は、場所と場所を結ぶ単なる交通手段ではなく、歴史や文化を提供することのできる空間であり、ひとつの資源としてと捉えられる。
- ・道路は、生活行動に密着した空間であり、コミュニティ空間として機能する。
- ・路地は、多様なシーンが提供できる空間として機能する。(生活している者には日常性を、訪問者には非日常を提供する。)



参拝客で賑わう元善光寺



正月の参拝で混雑する市場・板町線
＜参道として開放するのが望ましい＞

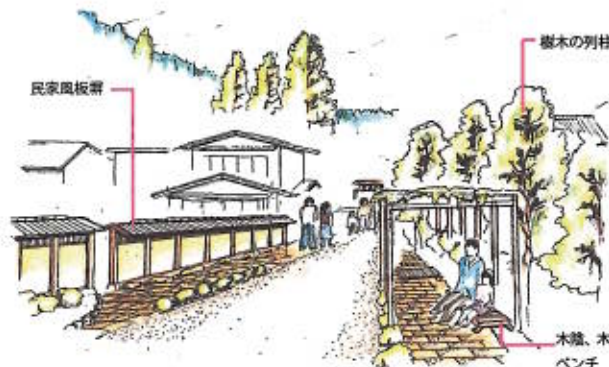


昭和の時代まで開催されていた「菊人形祭」
＜是非、再開したい＞



天竜峡で開催された「マルシェ」の賑わい
＜かつての如来様の彷彿させる＞

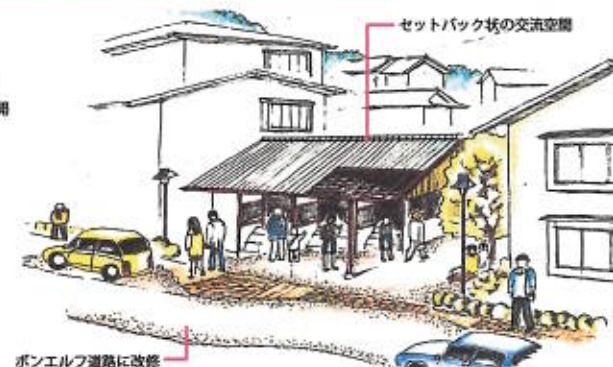
- 壱) ポケットパーク＜休憩、木陰、ストリートファニチャー＞
- 弐) ポケットパーク＜休憩、木陰、ストリートファニチャー＞
- 参) イベント広場＜如来様の再開、オープンカフェ＞
- 四) イベント広場＜如来様の再開＞
- 伍) 菊人形祭＜菊人形祭りの再開＞
- 六) コミュニティ館＜セットバック状の交流空間＞
- 七) コミュニティ館＜セットバック状の交流空間＞
- 八) ボンネルフ＜歩道を設けた歩車融合型道路＞
- 九) 参拝者用駐車場＜シンボルツリー、緑地帯＞
- 拾) 路地空間の活用
- 拾壱) 蕎麦の再生＜蕎麦史料展示・休憩・くつろぎ空間＞



弐) ポケットパーク・イメージ図



参) イベント広場・イメージ図



七) コミュニティ館・イメージ図

リニア長野県駅とのアクセス・イメージ図

【麻績神社・麻績の館】

・天正年間（1573年頃）より前の開創といわれ、1873年（明治6）以降、麻績神社と呼ばれる。明治後期から始まったとされる三兄弟の獅子曳きが特徴。
また1873年（明治6年）に建築されたといわれる麻績学校校舎は、巨大な木造建築物であり、歌舞伎舞台を備えた珍しい複合建築である。
春先の舞台桜開花時の風景は絶景であり、農村歌舞伎の再開も含め、都心部居住者の来訪スポットに成りうる神社である。

【本棟造・養蚕民家に残る農村原風景の継承】

・飯田市座光寺地区（旧座光寺村）は、他地域で次々と農地の転用・開発が進む中、農業振興地を維持してきた。その結果、江戸中期から明治期に建築された民家が、多数住み継がれている。江戸中期からの稲作主体時の本棟造が12棟、明治期以降の養蚕盛業時の養蚕民家が47棟残存しているが、これは農業の発展史を伝える貴重な産業遺産である。
このような民家が点在する農村原風景は南信州独自の資産であり、地域文化研究者のみならず都心部居住者の癒しの空間として、来訪するスポットになりうる素養のある地域である。

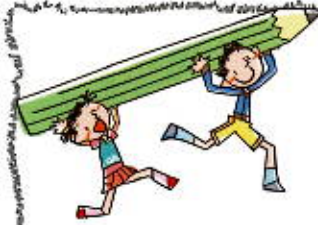


【農村原風景の残る座光寺地区】

平成19年度に景観条例は施工済みであるが、屋根形状・使用材料・色彩等の景観に関する基準を強化する必要がある。

⑨環境・エネルギー**A0001**

- 提案①駅前交通体系はランドアバウトにする(飯田らしさ)信号機のない駅前を演出する。
②街灯は太陽光発電システムとする
③建物の色調は飯田の赤土色とする(白とか黒はどこにもある)
④周辺の建物は恒川遺跡になじむ様式とする。



ア ⑨環境・エネルギー いよ。

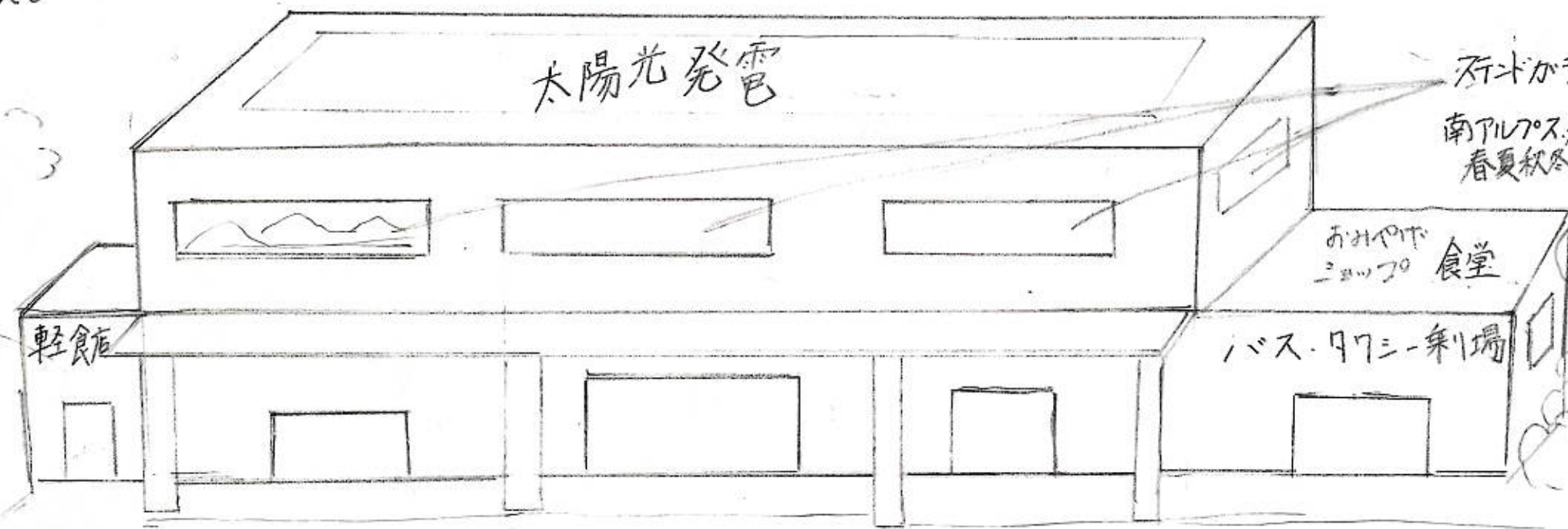
段差が無く、ゆったり座ることのできる待ち合い室
大きく見やすい電子けり示板

C0911

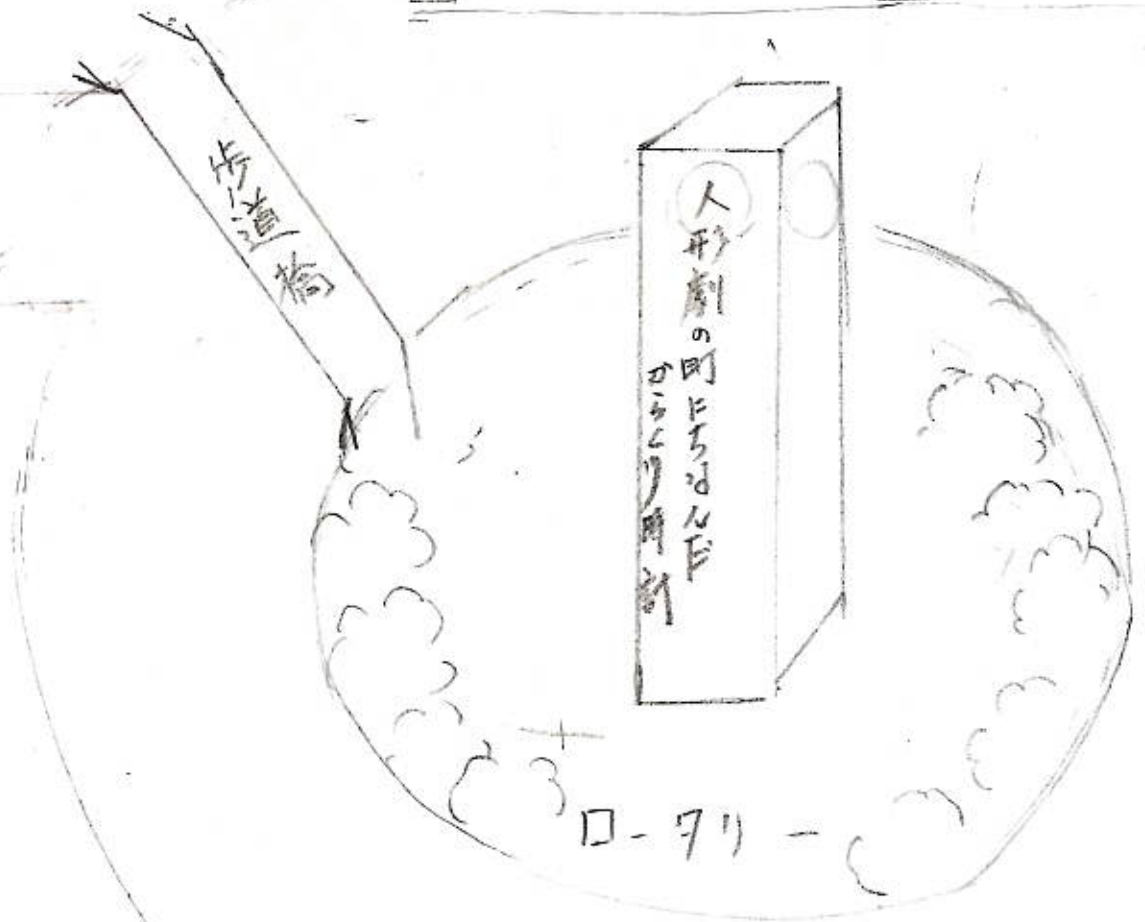


りんごの木など植える
収穫体験

多目的公園



ステンドグラスで光を
入れ、
南アルプス、天竜川、五ヶ所
春夏秋冬を表現。五ヶ所
地元料理を



駐車場



リニア全体を『伊那谷への1st Door』とする

北口 「長野県の南の玄関口」大都市⇄長野県
座光寺スマートインターにスムーズに接続

リニアのスピード感を引き継ぎ、シームレス（4せず原則堅持：待たせず・留まらず・歩かせず・滞らせず）にバス・タクシー・乗用車などに接続できる公共交通や自家用車で駅に来て、リニアに乗換する機能を集約



⑩地理的条件を踏まえた施設配置

リニア全体が『伊那谷の1st Door』 伊那谷の幕開け

北口

長野県の南の玄関口 大都市⇄長野県

座光寺スマートインターにスムーズに接続

ドラえもん型(日本低炭素社会シナリオより)

【キーワード】

- ・利便性・効率性・合理性・わかりやすいスピーディ・技術志向
- ・4せす原則: 待たせず・悩ませず・歩かせず・濡らさせず

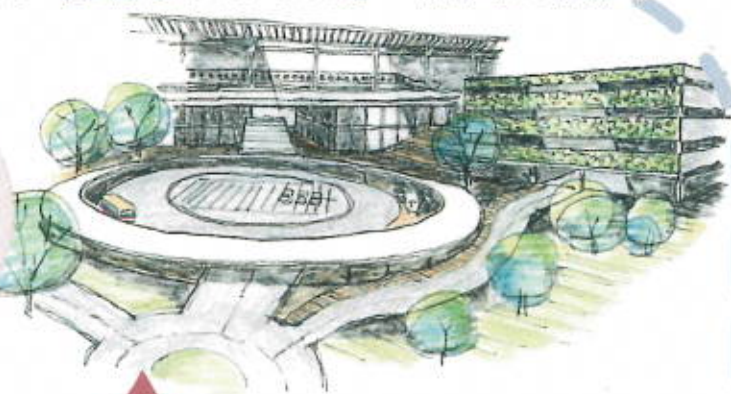
【配置すべき施設】

高度なトランジットハブとして

・バスバース(公共交通)・タクシープール・パーク&ライド駐車場(立体駐車場)・カーシェアリング・レンタカー・待合所

※10分以内の接続を目指す。滞在させないため、上記以外の施設(交流施設など)はつくりたくないこと。

※キス&ライド(自家用車での最寄り駅送迎)については南口に配置する。



リニア駅

南口

伊那谷の玄関口『伊那谷各地へといざなう2nd Door』

サツキとメイ型(日本低炭素社会シナリオより)

【配置すべき施設】

「人に会いに来る場所」として

・魅力発信施設(ウェルカムハウス群)、駅から降り立った目の前にみどりの広場(2500㎡規模)【必須】、お迎えレーン(キス&ライド)、駅舎と魅力発信施設をつなぐ回廊、マルシェ、乗り合いバス停(北口のバスバースから発進すればよい。南口にバスバースは不要。)

※魅力発信施設は建物や商品に魅力があることはもちろんだが、それだけでは伊那谷の魅力が伝わらない。伊那谷の「人」がそこにいることが重要。伊那谷各地域へといざなう2ndDoorは重い厚のため、観光客や来訪者だけで開けるのは困難。2ndDoorを開けるのは「伊那谷の人」が共にいて開けられる。2nd Doorを開けることを本来の「交流」と呼びたい。人こそが伊那谷の魅力を伝えるのであり、伊那谷各地域へ足を向かわせることになる。

※ウェルカムハウス群としたのは、魅力発信施設をひとつに集約するような合理性をここでは求めないため。それぞれの館でそれぞれの魅力を伝える。おもてなしの心を持った「伊那谷の人」がそこに多くいるほど魅力は高まると考える。

※この地域の人が集まる場所とすること。地元の人々が何度も通う場所が観光客にとっても魅力がある場所。観光客だけに向けた施設はこの地域では必要ない、成立しない。

※伊那谷らしさを駅周辺で表現するのではなく、伊那谷の魅力そのものである各地域へといざなう「2nd Door」となる施設群を整備する。

【キーワード】

- ・ゆったり・のんびり・癒し・安らぎ・スローライフ・自然志向
- ・休憩・語らい・笑い声・音楽・イベント・ときめき・人情



「人と人が出会い、つながる」＝「また訪れたい地域へ」

伊那谷の各地域

魅力ある各地域の『伊那谷の3rd Door』へ

・メガリージョンの中で最も「風土の豊かな地域」＝「日本らしい田舎」であることを知ってもらう。
(来客を迎え入れる意義はそこにある)

【キーワード】

おもてなし、暮らしに息づく知恵や技、ありのままの自然、多様性、生業、農のある暮らし、おじや経済(多様な産業・事業所数の多さ)、自主自立の気概、進取の気質

※「中央アルプスロープウェイ」、「高遠の楼」、「昼神温泉」などは、2ndDoorからすんなり入れるトップランキングの観光地であるが、それら以外にも伊那谷の語りつくせない魅力は、3rdDoorの向こう側にある。

3rd Doorを開けることができた来訪者は、伊那谷を知るとともに、ニッポンの日本を知ることになる。

1. 駅前開発のコンセプト

- 駅前開発のコンセプトは「コンパクトにまとめる」「人や車両の動きが効率的な駅」にすることである。理由は、
- (1) 本来の駅の目的は効率的な移動であり、駅の中で混雑・滞留しないように、時間で目的地に到着できることである。
 - (2) 混雑、滞留してしまうと駅としての魅力を失い、ビジネスや観光の機会を失うことになる。
 - (3) 駅前開発は域内周辺の小売り需要、観光需要を奪ってしまうことになる。駅前開発は最小限にとどめ、周辺への移動をスムーズに促す行うことに注力する。

駅前の「点」で整備するのではなく、周辺道路の「線の動き」を効率化し、地域全体の「面」を発展させる。駅はコンパクトにまとめ、接続道路整備と周辺の整備をする。

2. 利用可能な革新的未来技術

リニア中央新幹線が開業する2027年には情報通信技術・制御技術がさらに発展する。それらの技術を利用し、今までには無かった革新的な駅の構築が可能である。

(1) 自動運転車

運転者がコンピュータによる完全自動運転（レベル4）の登場。

段階別の自動運転

レベル	内容	現行法で可能
安全運転支援	1 加速、操縦、ブレーキのいずれかをシステムが行う	○
準自動走行	2 加速、操縦、ブレーキの複数システムが行うが、必要に応じてドライバーが操作	○
完全自動走行	3 加速、操縦、ブレーキのすべてをシステムが行う	○
	4 ドライバーが全く関与しない	○

駅乗降レーンで必要な自動運転レベル

東京オリンピックの2020年には都内で自動運転のバス・タクシーの導入が検討されている。2027年には市場に浸透し2030年以降は急激に普及が進むと考えられている。

駅は無人配車が可能となれば、以下のことが期待できる。

- ① 駐車場を駅付近に配置する必要がなくなる
- ② 降車後は車は自動的に駐車場に移動駐車することが出来る。
- (2) 顔認証などの高度認証・通信技術
顔認証が高度化し、駅内のカメラによって人物を特定し、適切な個人レベルの誘導が可能となる。スマートフォン等の近距離無線通信技術も同様の誘導が可能になる。
- (3) 人工知能（AI）の高度化
2012年以降「ディープラーニング」と言われる人工知能が進化、認知能力の向上により多くの言語での対人コミュニケーションが可能となる。

⑩地理的条件を踏まえた施設配置

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア募集

上空イメージ図

A0041



4. 駅および駅の周辺計画について

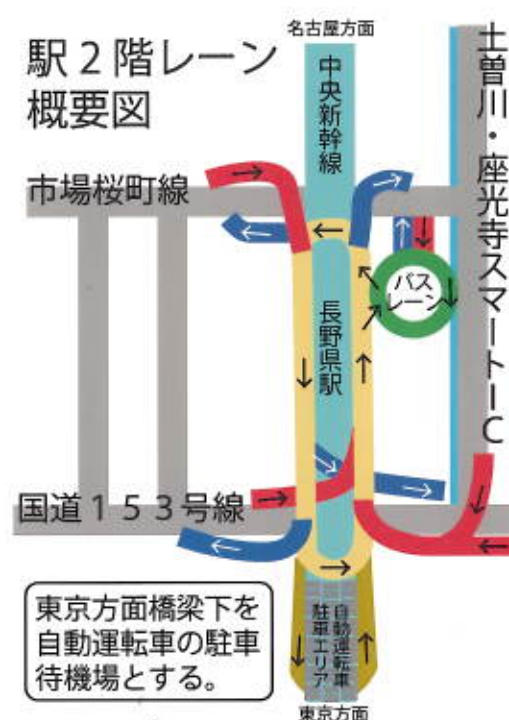
1 ビジネスホテル	①主要層は単身・ビジネス向け（高付加価値型） ②観光用は周辺の旅館等民間宿泊施設へ誘導（駅内観光案内にて紹介可能）
2 ヘリポート	①南アルプス登山口と言った長距離の観光用途 ②防災・緊急搬送（新幹線患者搬送） ③乗用を含むUAV（無人機）の離発着場として使用
3 バスレーン	①高さは2階乗降レーンと同じとし、乗降レーンからの乗り入れが可能。 ②1階部分は駐車場、地盤が高く天井の低い箇所は防災倉庫。 ③天井はガラスおよびソーラーパネルを使用する。中央は横断の光庭。 ④バス乗り場は森の中をイメージし、柱を樹木、ソーラーパネルが太陽光を和らげる
4 自動運転車乗降レーン	2階部分がタクシーおよび自動運転車の乗降レーンである。公道に降りずに周囲で待機。降車後無人になった自動運転車は高架下の駐車場に移動する。
5 菱田春草の森	菱田春草の作品をイメージした庭園
6 駅乗車レーン (in)	駅2階の乗降レーンに乗車口
7 高架下駐車場	リニア利用客を降車後、自動運転車は高架下の駐車場に自動誘導される。
8 駅降車レーン (out)	駅2階の乗降レーンに降車口、国道などに降りる
9 駅前広場	駅利用者の憩いの場、飯田の一本桜を中央に配置
10 一本桜	シンボルツリー
11 緑地駐車場	①緑化アロカを使用し一般車用駐車場 ②一般のAS舗装にくらべて温度上昇が少なく環境に配慮 自動運転車が導入されると、それほど重要ではなくなるが、駐車場としての大きさは減少する ③駐車場としての機能が不要となった場合、そのまま公園化可能 ④非常時における広場として利用可能 ⑤地下に貯水池（飲用）排水地（豪雨対策一部は非常時の飲用外水として利用可能）汚水坑（非常時吐出し可能）を有する
12 親水広場	土管川を2層化。下層はボックスカルバートで通水。上層：観賞可能な水深の浅い物。下層：通常～豪雨時の排水
13 マンション・オフィスエリア	土地利用計画における重点協議区域は、民間活力を利用し、景観を周辺住民に配慮したマンション・オフィスエリアとする

※駅1階は、駅機能施設の他に、コンビニエンスストア、物販店（お土産・手荷物程度）、有人観光案内を配置する

3. 自動運転車の乗り入れを前提とした乗降レーンおよび駐車場整備

自動運転車により以下の運用が可能となる。右図赤色が乗車レーン、青色が降車レーンとなる、乗降口は周回し、東京方面の高架橋下に駐車場とする。

- ① 利用者の駅入場後、無人になった自動運転車は高架下の自動運転車駐車エリアに誘導される。
- ② 駅退出時は、利用者が駅到着時に、自動運転車は高架下の自動運転車駐車エリア等より乗降レーンに誘導。利用者を乗せ公道に降りる。
- ③ 乗車レーン（赤色）に自動運転車を滞留させることで公道の渋滞を回避する。
- ④ 降車レーン（青色）に目的の道路に誘導することで、無駄な動線を回避し信号に遭うことなく公道に合流する。
- ⑤ 目的地をあらかじめ登録することで最適な乗降レーンに誘導する。

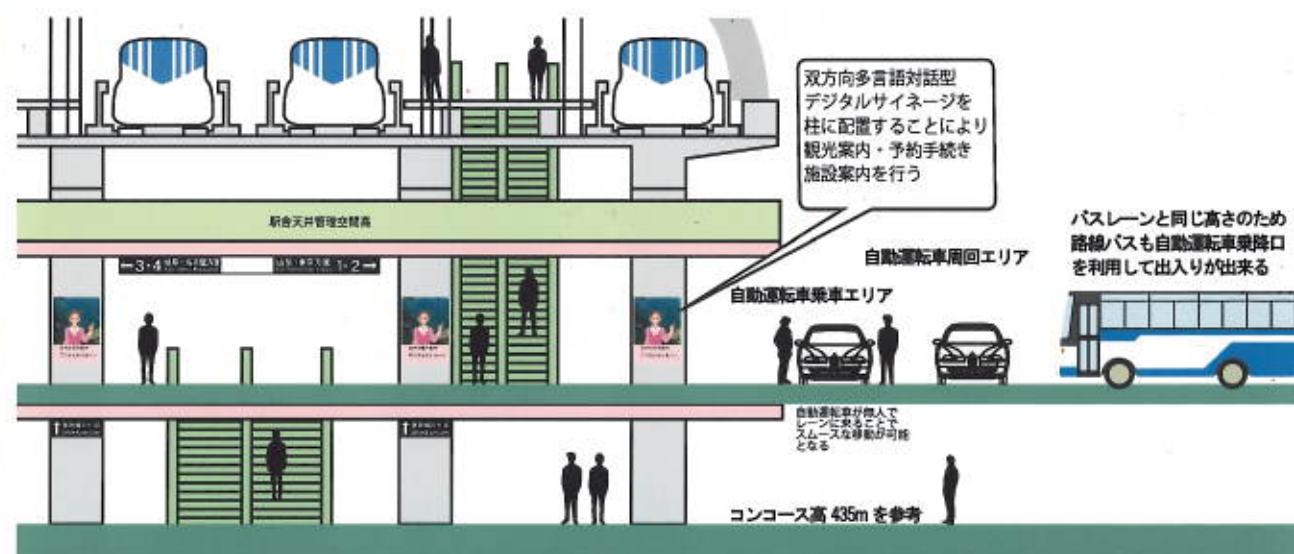


⑩地理的条件を踏まえた施設配置



正面イメージ図

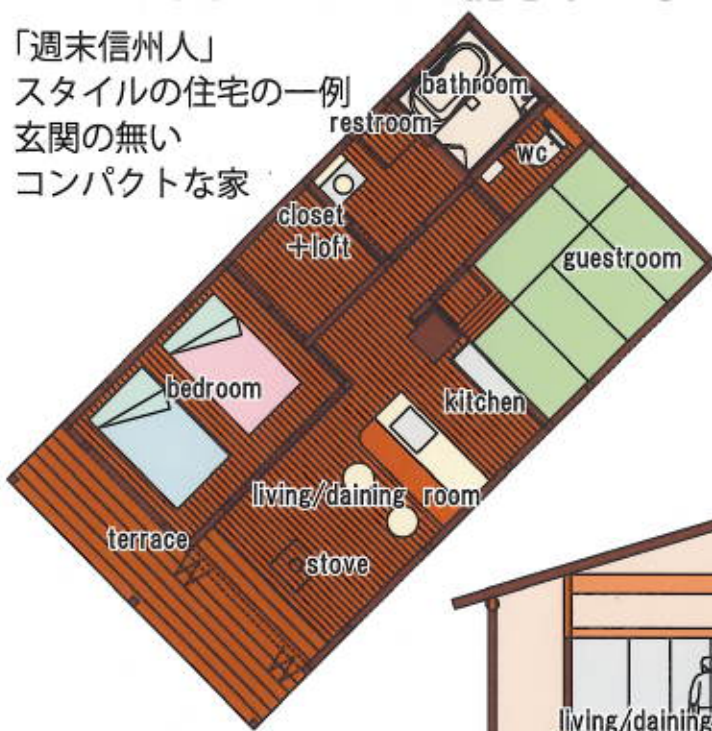
リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア募集



駅2階イメージ図

5. 大都市部へ通勤可能となった「週末信州人」のライフスタイル提案

「週末信州人」
スタイルの住宅の一例
玄関の無い
コンパクトな家



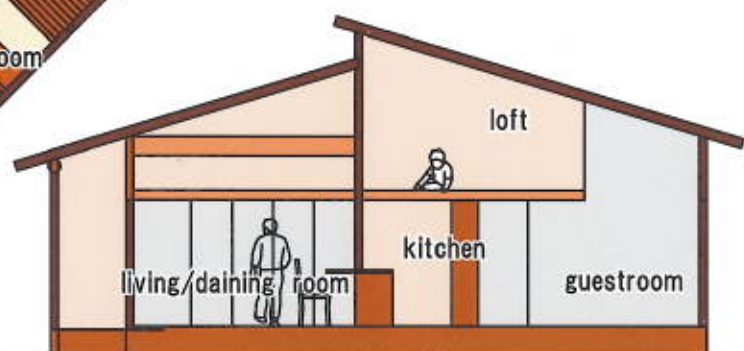
長野県中間駅は名古屋まで20分、東京まで40分通勤圏となる。様々な通勤スタイルが登場する。また週末は地方で土と過ごしたいというライフスタイルも現れる。それらの需要を受け入れることで南信州の人口増と賑わいを獲得する。若年層への支援を充実し、定住化を促進する。

(1) 週末信州人のターゲット層。

- ①セカンドライフ層、段階的に生活が信州側にシフト
- ②子育て世代、仕事は都市圏で子供は自然環境の恵まれた田舎で生活
- ③農業趣味・農業挑戦者の取り込み（農業有識者のフォローアップが必要）

(2) 週末信州人のライフスタイル

- ①休耕地を利用した耕作
- ②5世帯ぐらいを1グループとして建物と土地（田畑付）を用意「邑（むら）」を形成
- ③自家用車・トラックなどは共有（シェアリング）をして利用する農業人口の増加が期待できる。



6. ICT を利用した案内と誘導

駅2階部分は3m程度と天井が低く、採光が軌道下のため困難である。また柱が多い。その制約条件を有効に生かし以下のような機能を設ける。

- ①顔認証やスマートフォンとの短距離通信で利用者を特定し、利用者の行きたい場所へ誘導する。利用者前面に天井から行き先表示のプロジェクションマッピングを行う。用者はマッピングの映像を元に誘導される。停車位置が不定の自動運転車やタクシーへの乗り換えがスムーズに行うことができる。
- ②柱には双方向対話型のデジタルサイネージを配置し、利用者はデジタルサイネージに話しかけることで、観光案内や乗車券等の決済を行うことができる。



床に投影されるメッセージ例

